

金八先生も教育改革

～ テレビドラマ「3年B組金八先生」でも取り上げられました～

みなさんもお存じのことと思いますが、テレビドラマにおいて、俳優の武田鉄矢さんが中学校の国語の先生「坂本金八」を演じるあの「3年B組金八先生」が再び始まっています。

いつも、その当時の社会現象を反映させるとともに、中学生の本音を取り上げて話題になっていますが、今回も初回の放送（平成11年10月14日）から、たくさんの内容が盛り込まれていました。

初回の放送では、「区立桜中学校」のプレートと並んで「さくらデイサービスセンター」のプレートを取り付けている場面から始まりました。桜中学校の1階にデイサービスセンターができることになったのです。そして、授業の中でも、子どもたちが車椅子の体験学習をしたりする場面などもありましたが、みなさんはどう思われたでしょうか？

「何で学校の中にデイサービスセンターがあるの？」「お年寄りと子どもたちが一緒に建物にいて大丈夫なの？」「学校の廊下でおじいちゃんやおばあちゃんとすれ違うなんて想像つかないなあ」など、いろいろ考えられたのではないのでしょうか？

これからの学校は、地域コミュニティの拠点として、高齢者福祉施設と一体的に整備したり、子どもの減少により増えてきている余裕教室を活用するなどして、お年寄りとの交流がたくさん行えるようになる場所が増えてくると思います。

このようなところでは、おじいちゃんおばあちゃんは子どもたちの姿を間近に眺めることができ、子どもたちは様々な活動を通じておじいちゃんおばあちゃんと交流を図ることができるようになるとともに、登下校や休み時間等には、自発的で自然な交流が生まれてくることでしょう。

初回の放送の終わりに、「金八先生」が次のように言っていました。

「来週からいよいよ地域のお年寄りが、本校の介護サービスセンターにお見えになります。そのお年寄りが見えた時に、ジジイだとかババアだとかきかない言葉を使わないでください。みなさん、この地域のお年寄りです。今から54年前、日本は戦争に負けて東京は一面の焼け野原でした。ゲームセンターもバーガーショップも何にもなかったのです。そんな焼け野原に立ち上がって、お年寄りたちは石を積むようにして町を再建なさり、日本を復興に導いた先輩なのです。君たちのお父さんやお母さんを育てた世代なのです。その仕事だけで、お年寄りは十分に尊敬に値します。中には分からず屋の方とか口うるさい方もいらっしゃるかもしれませんが、だけでも、付き合ってくださいよ。いつかはお年寄りたちは君たちにすばらしい贈り物をくださると思いますよ。」

地域のお年寄りは、地域みんなの「おじいちゃん」「おばあちゃん」なのです。そして、地域の子どもたちは、地域みんなの「子ども」であり「孫」なのです。



みんなで一緒に「1・2・3」



何が始まるのか？みんな「ワクワク」



今日はおじいちゃんおばあちゃんが「先生」です